

大学生が「募集広報に資する研究成果」を披露

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 松田辰雄 1等海佐）は、7月6日（木）、横浜商科大学商学部と実施している「自衛官の効果的募集についての共同研究」の第1回中間発表会に参加した。

本共同研究は、募集対象者の視点から、マーケティング技法を用いて自衛隊が行う募集活動を評価し、今後の募集活動を効果的に実施する資を得ようと、今年度より横浜商科大学商学部の協力を得て行っているものである。

第1回中間発表会では、4グループに分かれた学生（計17名）が、就職先としての自衛隊についてのイメージを市場アンケートによって調査した結果及び募集広報に使用する紙媒体及びWEBによって発信されている内容を整理、改善提案を実施した。

学生からは、facebookとtwitterを広報で使用する際の用法があいまい、「おっ」と思わせる発信がなければ興味を持たないなどの厳しい意見が寄せられた。

今後は、部隊研修を行い、募集対象者の視点から、自衛隊としてアピールすべき点を抽出していく計画である。

神奈川地本は、「今回の学生の発表内容を更に分析、部隊研修をとおして、神奈川地本としてより良い募集広報実施につなげていくことのできる成果を得たい」としている。



本部長（右端）を前に研究成果を披露する学生たち



本部長からの質問に答える学生たち



学生たちを前に今後も研究に期待する旨を伝える本部長



共同研究を行なう柳田教授（右端）のゼミ生たち

貴重な船旅、特務艇「はしだて」体験航海を支援

神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所（所長 近藤一尉）は7月13日（木）、特務艇「はしだて」の体験航海（晴海ふ頭〜横須賀基地）を支援した。「はしだて」は、国内外の要人などを招いて接遇する任務を主としており、受験対象者のために体験航海することは稀で、今回は貴重な体験となった。

船内に入った参加者たちは、護衛艦とは異なり、木材をふんだんに使用して造られている内装を見て「まるでホテルのようですね。自衛隊の船とは思えないです」と驚いた様子であった。参加者たちは、機関長から歓迎の挨拶を受け、その後、乗組員の案内により艦橋やレセプション等に使用される甲板を見学した。

ラウンジでは、防衛大臣主催のパーティーなどで披露された料理など、今まで「はしだて」が担当した料理の写真が閲覧でき、参加者たちは、和食や洋食、デザート等種類の多さに圧倒されている様子であった。

艦橋では、海図の見方や計器類などの説明を受け、参加者たちは興味深げにのぞき込み「これは何を表しているのですか」「護衛艦との違いはありますか」など積極的に質問をしていた。

また、参加者たちからの「はしだては就航して、何年目ですか」「酔いがありますか」「海上自衛官を選ばれた理由は何ですか」などの質問に機関長が気さくに対応してくれた。丁寧に質問に答える機関長の姿から、海上自衛官の「おもてなしの心」を垣間見ることができた。

市ヶ尾募集案内所は「海上自衛官を目指す参加者たちにとって、はしだての航海は大変貴重な時間となった。今後も体験航海の機会を積極的に活用し、海上自衛隊の魅力を伝えていきたい」としている。



出港前の「はしだて」



「はしだて」乗組員に海図について質問する参加者



「はしだて」ラウンジにて機関長と談笑する参加者